

WHO・ESCAP共催「出生と家族計画行動の社会・

心理的側面に関するリサーチ・セミナー」

標記のセミナーがバンコクのエスカップ事務局で1980年11月18日から27日までの10日間開催され、WHO 出産活動特別研究班、エスカップの人口部職員、5名のエスカップ地域内外からの講師 (Resource persons)、25名のエスカップ地域からの参加者が出席した。WHO からは、John Marshall 博士、エスカップからは人口部長 Boonlert 博士、Jacques de Guerny 氏、渡辺周央氏、Trinidad Osteria 博士等が主催機関代表として出席された。日本からは厚生省人口問題研究所人口資質部長河野稠果及び同研究所同部の広嶋清志が出席した。講師としては、河野のほか、Dr. Nila Kapor-Stanulovic (ユーゴスラビア)、Dr. M. E. Khan (インド)、Dr. Suchart Prasith-rathsint (タイ) 及び Dr. Russell Darroch (オーストラリア) 及び上記のWHO とエスカップの職員がそれぞれの講義の項目を全部乃至一部を担当した。

セミナーは、25名のセミナー参加者が、出生と家族計画行動の社会心理的側面に関するリサーチ・プロジェクトを、WHO の出産家族計画行動の社会・心理的側面研究基金に対し応募することを仮りに想定して正しく作成するように、以下の10項目の要件に照らして、一般の講義を受け、討論を行ない、6つのグループに分けられて個人指導を受け、自習をして、独自の改訂されたリサーチ・プロジェクトを作り上げて行くという、きわめてユニークなものであった。10項目の講義・個人指導構成内容は次のとおりである。

- (1) セミナーのバック・グラウンド
- (2) 家族計画・出生行動の社会・心理的研究の動向
- (3) プロジェクト内容に関連する文献の研究
- (4) リサーチ・ニードと優先順位の確立
- (5) リサーチ・プロジェクト作成の際の論理の流れ
- (6) 仮説と変数
- (7) リサーチ・デザイン
- (8) 標本抽出
- (9) データの蒐集
- (10) データ処理と分析

日本からの参加者として、河野稠果は、第2の「家族計画・出生行動の社会・心理的研究の動向について」ペーパーを提出、又、(10)のデータ処理と分析について講義をし、(3)と、それからここにはないが人口と家族計画に対する国際的援助の項目のセッションの議長を務め、広嶋は「保育環境と出生力」に関するプロジェクトをとくに日本のような低出生率に到達した国の状況に基づいて立案し、セミナーの期間中これを改善した。又、広嶋はセミナー中、日本に関する出生力行動の情報を種々提供した。(河野 稠果記)

人口問題研究会主催「出生意思決定に及ぼす

文化的要因の比較研究国際会議」

標記の国際会議が、国連人口基金の財政的援助を受けて人口問題研究会の主催により、昭和55年9月29日から10月2日まで4日間東京千鳥カヌーのフェアモント・ホテルにて開かれた。出席者は、日本、韓国、マレーシア、タイ、シンガポール、米国 East-West Center から20数名が参加した。会議の目的は、東アジア及び東南アジアにおける出生力と家族計画に及ぼす文化的要因に関する諸研究を概観レビュー・評価を行ない、その State of the art ともいべきものを明らかにすることが一つで、次にそこで明らかになった研究の gaps を埋め